簿記の基本原理②

仕　訳

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

仕訳の手順をマスターしよう！

（1）仕訳とは？

取引をいきなり勘定に記入すると記入間違えをしてしまうかもしれないので、勘定に記入する前に**仕訳**という手続きを行います。**仕訳**とは、取引を借方（左側）と貸方（右側）に分け、勘定科目と金額を決める手続きをいいます。仕訳で借方（左側）または貸方（右側）に複数の勘定科目が生じる場合がありますが、どの勘定科目を先に書くといったルールはありません。なお、取引を借方（左側）と貸方（右側）に分け、記録・計算する簿記を、**複式簿記**といいます。

（2）仕訳の手順

① 借方と貸方の簿記の５要素の決定

取引を借方と貸方に分け、簿記の5要素のどれにあてはまるかを決定します。

② 勘定科目の決定

取引を適切に表す具体的な勘定科目を決定します。

③ 金額の決定

各勘定科目ごとの金額を決定します。なお、必ず借方と貸方の金額は一致します。

例えば、「備品1,000円を現金で購入した」という取引を考えてみます。

① 借方と貸方の簿記の5要素の決定

備品という資産が増加（借方）し、現金という資産が減少（貸方）しました。

② 勘定科目の決定

備品は「備品」勘定（資産）、現金は「現金」勘定（資産）を用います。

③ 金額の決定

借方と貸方ともに、1,000円です。

したがって、仕訳は以下のようになります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
備　品	**1,000**	**現　金**	**1,000**

簡略版として、以下のように仕訳が示される場合もあります。

備　品　1,000 / 現　金　1,000

なお、金額については通常、３桁ごとにカンマ（ , ）を付します。

例題　**株主から現金3,000円の出資を受け、株式会社を設立した。**

現金という資産が増加（借方＝左側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の増加として処理します。また、出資は会社の元手となりますので、純資産の増加（貸方＝右側）として「**資本金**（しほんきん）」勘定（純資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**3,000**	**資本金**	**3,000**

例題　**現金2,000円を銀行から借り入れた。**

現金という資産が増加（借方＝左側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の増加として処理します。また、借入金（かりいれきん）という負債が増加（貸方＝右側）しましたので「**借入金**」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**2,000**	**借入金**	**2,000**

例題　**借入金の利息300円を現金で支払った。**

現金という資産が減少（貸方＝右側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の減少として処理します。また、支払利息（しはらいりそく）という費用が増加（借方＝左側）しましたので「**支払利息**」勘定（費用）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払利息	**300**	**現金**	**300**

例題　**販売に関する手数料として、700円の現金を受け取った。**

現金という資産が増加（借方＝左側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の増加として処理します。また、受取手数料（うけとりてすうりょう）という収益が増加（貸方＝右側）しましたので、「**受取手数料**」勘定（収益）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**700**	**受取手数料**	**700**

Point! **勘定科目は新しく出てきた都度、覚えていきましょう！**

転　記

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 転記のルールをマスターしよう！

② 貸借平均の原理の内容を理解しよう！

（1）転記とは？

仕訳のデータを各勘定（勘定口座）へ記入することを**転記**といいます。

仕　訳	転　記 →	勘　定

（2）転記のルール

① 借方（左側）に仕訳された勘定科目はその勘定の借方（左側）に記入し、貸方（右側）に仕訳された勘定科目はその勘定の貸方（右側）に記入します。

② 日付欄には、仕訳が行われた日付（取引日）を記入します。

③ 摘要欄には、仕訳の相手勘定科目（貸借反対側の勘定科目）を記入します。

④ 借方欄または貸方欄には、仕訳の金額を記入します。

例えば、「1月1日に備品1,000円を現金で購入した」という取引を考えてみます。

日付	借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
1/1	**備　　品**	**1,000**	**現　　金**	**1,000**

備品が増加したので、備品勘定の借方に記入 ↓ **転記**

転記 ↓ 現金が減少したので、現金勘定の貸方に記入

備　品

(日付)	(摘　要)	(借　方)	
1/1	**現　金**	**1,000**	

現　金

	(日付)	(摘　要)	(貸　方)
	1/1	**備　品**	**1,000**

摘要欄に相手勘定科目を記入することによって、勘定のみでも取引内容がわかります。「備品」勘定の摘要欄に「現金」が記入されていることから、備品を「現金」で購入したことがわかります。また、現金勘定の摘要欄に「備品」が記入されていることから、現金が減少したのは「備品」を購入したためであることがわかります。

例題 **次の仕訳を各勘定に転記しなさい。**

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1	現金	3,000	資本金	3,000
2/2	現金	2,000	借入金	2,000
3/3	支払利息	300	現金	300
4/4	現金	700	受取手数料	700

現　　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	資本金	3,000	3	3	支払利息	300
2	2	借入金	2,000				
4	4	受取手数料	700				

借　入　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				2	2	現金	2,000

資　本　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				1	1	現金	3,000

受取手数料

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				4	4	現金	700

支払利息

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
3	3	現金	300				

（３）貸借平均の原理

仕訳において、借方（左側）と貸方（右側）の金額は必ず一致します。

また、仕訳のデータを各勘定に転記しますが、すべての勘定の借方（左側）に記入された金額の合計金額と貸方（右側）に記入された金額の合計金額も必ず一致します。

さらに、すべての勘定の借方残高の合計金額と貸方残高の合計金額も必ず一致します。これを**貸借平均の原理**（たいしゃくへいきんのげんり）といいます。

例えば、仕訳は以下のとおりとします。すべての仕訳の借方合計6,000円と貸方合計6,000円は必ず一致します。

日付	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
1/1	現　　　　　金	3,000	資　　本　　金	3,000
2/2	現　　　　　金	2,000	借　　入　　金	2,000
3/3	支　払　利　息	300	現　　　　　金	300
4/4	現　　　　　金	700	受　取　手　数　料	700
	借方合計	**6,000**	**貸方合計**	**6,000**

次に、勘定は以下のとおりです（実際の記入の仕方とは違う部分があります）。

現　　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	1	資　　本　　金	3,000	3	3	支　払　利　息	300
2	2	借　　入　　金	2,000				
4	4	受　取　手　数　料	700				
		借方合計	**5,700**			**貸方合計**	**300**

残高（借方）＝5,700－300＝5,400

借　入　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				2	2	現　　　　金	2,000
		借方合計	**0**			**貸方合計**	**2,000**

残高（貸方）＝2,000－0＝2,000

資　本　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	1	現　　　　金	3,000
		借方合計	**0**			**貸方合計**	**3,000**

残高（貸方）＝3,000－0＝3,000

受取手数料

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				4	4	現　　　　金	700
		借方合計	**0**			**貸方合計**	**700**

残高（貸方）＝700－0＝700

支 払 利 息

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
3	3	現　　　　金	300				
		借方合計	**300**			**貸方合計**	**0**

残高（借方）＝300－0＝300

　すべての勘定の借方合計6,000円（＝現金5,700円＋支払利息300円）とすべての勘定の貸方合計6,000円（＝現金300円＋借入金2,000円＋資本金3,000円＋受取手数料700円）は必ず一致します。

　また、借方に残高がある勘定の残高合計5,700円（＝現金5,400円＋支払利息300円）と貸方に残高がある勘定の残高合計5,700円（＝借入金2,000円＋資本金3,000円＋受取手数料700円）も必ず一致します。

試算表

【重要性：A】

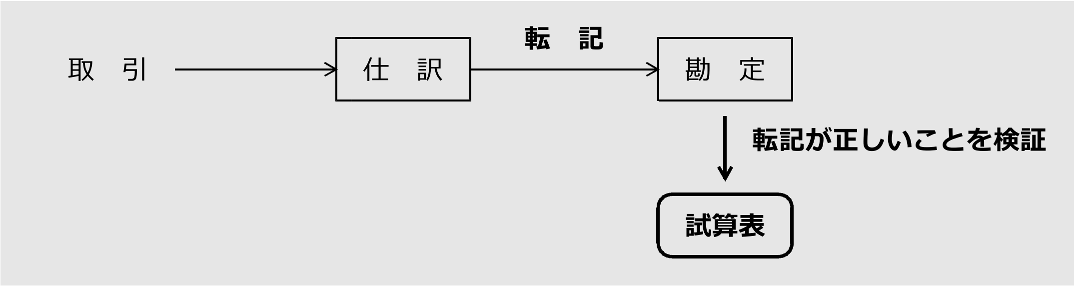
ＰＯＩＮＴ！

試算表について理解しよう！

（1）試算表とは？

　取引が発生したら仕訳を行い、各勘定に転記します。しかし、転記が間違って行われる可能性があります。そこで、仕訳のデータが各勘定へ正しく転記されたかを検証するために、**試算表**（しさんひょう）を作成します。試算表は各勘定の金額を集計した表であり、借方合計と貸方合計が一致すること（**貸借平均の原理**（たいしゃくへいきんのげんり））により、転記が正しいことを検証します。試算表は英語で Trial Balance というので、**T/B（ティービー）**と略します。

　また、試算表を作成することで、損益計算書と貸借対照表を作成しやすくなります。



（2）試算表の種類

　試算表には、合計試算表（ごうけいしさんひょう）、残高試算表（ざんだかしさんひょう）、合計残高試算表（ごうけいざんだかしさんひょう）があります。

① **合計試算表**は、各勘定の貸借の**合計金額**を集計します。

② **残高試算表**は、各勘定の**残高**を集計します。

③ **合計残高試算表**は、合計試算表と残高試算表を１つにまとめた試算表です。

例題 **次の勘定に基づいて、①合計試算表、②残高試算表、③合計残高試算表を作成しなさい。**

現　　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	資　本　金	3,000	3	3	支　払　利　息	300
2	2	借　入　金	2,000				
4	4	受　取　手　数　料	700				

借　入　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				2	2	現　　金	2,000

資　本　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	現　　金	3,000

受取手数料

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				4	4	現　　金	700

支 払 利 息

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	3	現　　金	300				

①　合計試算表

合　計　試　算　表

借　方	勘　定　科　目	貸　方
5,700	現　　金	300
	借　入　金	2,000
	資　本　金	3,000
	受　取　手　数　料	700
300	支　払　利　息	
6,000		6,000

貸借平均の原理により、すべての勘定の借方合計6,000円とすべての勘定の貸方合計6,000円は必ず一致しますので、合計試算表で貸借が一致することで転記の正確性を検証します。

② 残高試算表

残 高 試 算 表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
5,400	現 金	
	借 入 金	2,000
	資 本 金	3,000
	受 取 手 数 料	700
300	支 払 利 息	
5,700		5,700

貸借平均の原理により、借方に残高がある勘定の残高合計5,700円と貸方に残高がある勘定の残高合計5,700円も必ず一致しますので、残高試算表で貸借が一致することで転記の正確性を検証します。

③ 合計残高試算表

合 計 残 高 試 算 表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計		合 計	残 高
5,400	5,700	現 金	300	
		借 入 金	2,000	2,000
		資 本 金	3,000	3,000
		受 取 手 数 料	700	700
300	300	支 払 利 息		
5,700	6,000		6,000	5,700

合計試算表と残高試算表の両方を１つの表にまとめたのが、合計残高試算表です。

簿記の基本原理② 問題

問題1　以下の取引について、仕訳を答えなさい。

①　株主から現金100,000円の出資を受け、会社を設立した。
②　備品3,000円を現金で購入した。
③　受取利息として現金2,000円を受け取った。
④　広告宣伝費1,000円を現金で支払った。
⑤　銀行から9,000円を借り入れ、現金を受け取った。
⑥　家賃700円を現金で支払った。
⑦　土地20,000円を現金で購入した。
⑧　給料8,000円を現金で支払った。
⑨　借入金5,000円を現金で返済した。
⑩　手数料として現金1,500円を受け取った。

問題2　以下の取引について、①仕訳を行い、②各勘定へ転記を行いなさい。

1/1　株主から現金80,000円の出資を受け、会社を設立した。
1/2　建物11,000円を現金で購入した。
1/3　家賃として現金9,000円を受け取った。
1/4　旅費交通費1,000円を現金で支払った。
1/5　銀行から4,000円を借り入れた。

問題3　以下の勘定にもとづいて、①合計試算表、②残高試算表、③合計残高試算表を作成しなさい。

現　　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	資本金	40,000	1	2	建物	20,000
	3	受取家賃	5,000		4	水道光熱費	1,000
	5	借入金	7,000				

建　　物

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	2	現金	20,000				

借 入 金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	5	現金	7,000

資 本 金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	現金	40,000

受取家賃

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	3	現金	5,000

水道光熱費

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	4	現金	1,000				

簿記の基本原理② 答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				

問題2

①　仕訳

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
1/1				
1/2				
1/3				
1/4				
1/5				

② 勘定記入

現　　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

建　　物

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

借 入 金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

資 本 金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

受取家賃

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

旅費交通費

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

問題3

① 合計試算表

合 計 試 算 表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
	現 金	
	建 物	
	借 入 金	
	資 本 金	
	受 取 家 賃	
	水 道 光 熱 費	

② 残高試算表

残 高 試 算 表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
	現 金	
	建 物	
	借 入 金	
	資 本 金	
	受 取 家 賃	
	水 道 光 熱 費	

③　合計残高試算表

合計残高試算表

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
		現金		
		建物		
		借入金		
		資本金		
		受取家賃		
		水道光熱費		

簿記の基本原理② 解答解説

問題1　解答

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	現金	100,000	資本金	100,000
②	備品	3,000	現金	3,000
③	現金	2,000	受取利息	2,000
④	広告宣伝費	1,000	現金	1,000
⑤	現金	9,000	借入金	9,000
⑥	支払家賃	700	現金	700
⑦	土地	20,000	現金	20,000
⑧	給料	8,000	現金	8,000
⑨	借入金	5,000	現金	5,000
⑩	現金	1,500	受取手数料	1,500

問題1　解説

まずは現金が増加したか、減少したかを考えましょう。現金が増加した場合には借方（左側）に、現金が減少した場合には貸方（右側）に記入します。次に現金の相手勘定科目を現金が記入された側の反対側に記入しましょう。

① 株主からの出資は「資本金」勘定（純資産）の増加として、貸方（右側）に記入します。

② 備品は資産です。「備品」勘定（資産）の増加として、借方（左側）に記入します。

③ 受取利息は銀行に預金したことや取引先にお金を貸したことにより受け取った利息であり、収益です。「受取利息」勘定（収益）の増加として、貸方（右側）に記入します。

④ 広告宣伝費は費用です。「広告宣伝費」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑤ 銀行から借りたお金は借入金という負債です。「借入金」勘定（負債）の増加として、貸方（右側）に記入します。

⑥　支払家賃は費用です。「支払家賃」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑦　土地は資産です。「土地」勘定（資産）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑧　給料は費用です。「給料」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑨　借入金を返済すると負債が減少します。「借入金」勘定（負債）の減少として、借方（左側）に記入します。

⑩　受取手数料は収益です。「受取手数料」勘定（収益）の増加として、貸方（右側）に記入します。

問題2　**解答**

①　仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1	**現金**	**80,000**	**資本金**	**80,000**
1/2	**建物**	**11,000**	**現金**	**11,000**
1/3	**現金**	**9,000**	**受取家賃**	**9,000**
1/4	**旅費交通費**	**1,000**	**現金**	**1,000**
1/5	**現金**	**4,000**	**借入金**	**4,000**

②　勘定記入

現　　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	資本金	80,000	1	2	建物	11,000
	3	受取家賃	9,000		4	旅費交通費	1,000
	5	借入金	4,000				

建　　物

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	2	現金	11,000				

借　入　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	5	現　　　　金	4,000

資　本　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	1	現　　　　金	80,000

受 取 家 賃

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	3	現　　　　金	9,000

旅費交通費

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	4	現　　　　金	1,000				

問題2　**解説**

①　仕訳

1/1 株主からの出資は「資本金」勘定（純資産）の増加として、貸方（右側）に記入します。

1/2 建物は資産です。「建物」勘定（資産）の増加として、借方（左側）に記入します。

1/3 受取家賃は収益です。「受取家賃」勘定（収益）の増加として、貸方（右側）に記入します。

1/4 旅費交通費は費用です。「旅費交通費」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

1/5 借入金は負債です。「借入金」勘定（負債）の増加として、貸方（右側）に記入します。

②　転記記入

借方に仕訳された勘定科目はその勘定の借方に記入し、貸方に仕訳された勘定科目はその勘定の貸方に記入します。摘要欄には、仕訳の相手勘定科目を記入し、借方欄または貸方欄には、仕訳の金額を記入します。

問題3　**解答**

①　合計試算表

合　計　試　算　表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
52,000	現　　　　　　金	21,000
20,000	建　　　　　　物	
	借　　入　　金	7,000
	資　　本　　金	40,000
	受　取　家　賃	5,000
1,000	水　道　光　熱　費	
73,000		73,000

②　残高試算表

残　高　試　算　表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
31,000	現　　　　　　金	
20,000	建　　　　　　物	
	借　　入　　金	7,000
	資　　本　　金	40,000
	受　取　家　賃	5,000
1,000	水　道　光　熱　費	
52,000		52,000

③　合計残高試算表

合 計 残 高 試 算 表

借方		勘定科目	貸方	
残 高	合 計		合 計	残 高
31,000	52,000	現　　金	21,000	
20,000	20,000	建　　物		
		借 入 金	7,000	7,000
		資 本 金	40,000	40,000
		受取家賃	5,000	5,000
1,000	1,000	水道光熱費		
52,000	73,000		73,000	52,000

問題3　**解説**

①　合計試算表には、各勘定の借方合計金額、貸方合計金額を記入します。単純に、借方に記入されている金額を合計し、貸方に記入されている金額を合計するだけです。

②　残高試算表には、各勘定の残高を記入します。各勘定の借方合計と貸方合計を相殺して残高を算定する必要があります。

③　合計残高試算表は①と②の両方を記入します。